



人間牧場主
若松 進一

子どもの数で 地域の総合力は決まる

●わが家の四代前は何と十二倍

私の親父は大正七年、十二人兄弟姉妹の長男に生まれています。十二人目の末娘が生まれたのは昭和十八年ですから、祖父母は二十五年間で十二人の子どもを作るとはえらい量産です。当時の社会は富国強兵の国策を反映して「産めよ増やせよ」の時代でしたから、当時の東条英機首相から「よくぞ産んだ」と表彰してもらったことが、今は亡き祖母の自慢の一つでした。わが集落にはそんな子沢山な家庭はザラで、「いろはカルタ」で詠まれている「律儀者の子沢山」を象徴するような賑やかさでした。

私は昭和十九年に、親父二十五歳、母二十三歳の時に生まれましたが、叔母で

ある親父の末妹が生まれた明くる年でした。私が叔母と一つ違いという何とも奇妙な歳の差で、子どもの頃この叔母を姉と勘違いして育った程なのです。私には五人兄弟がおり、二つ違いの本当の姉がいます。母は十二年間で五人の子どもを産み育てましたが、近所はどの家庭も五人く八人くらい子どもがいたように思います。

私は、昭和四十六年に一つ違いの妻と結婚し、明くる年から妻は四人の子どもを産み育てました。その頃は二人から三人の子どもが普通で、四人目が生まれた時は「あんたも好きねえ」と言われるようなむしろ多い方でした。

私の長男は、晩婚とでもいうべき三十歳で、ひとつ違いの女性と結婚し子どもが今年の夏に生まれ、今のところ一人で



少年少女おもしろ教室「夏のキャンプ」
初体験のドラム缶風呂は大好評

す。夫婦の年齢から考えると多分多くてもあと一人くらいかなあと思うのです。日本社会全体としては、合計特殊出生率が約一・三人ですから、多くも少なくもない平均的家庭なのでしょう。さらに、息子の同級生には晩婚や未婚の人が多く、先日開いた中学時代の同級会にはかなりの未婚者がいたそうで、このことも気になるところなのです。

こうして、わが家の子どもの数や時代背景を、四代にわたって比較してみると、現代はいかに少子化であるかがよく分るのです。

●少子化の悲劇

私たちが子どもの頃の人口構成は、子どもが多く高齢者が少ないという典型的なピラミッド型でした。ところが最近はその数も数が少なく、七十五歳以上が人口の割以上を占めるといって、逆ピラミッド型になっていて、少子化による社会への影響は、将来の日本の国づくりに暗い影を投げかけています。年金や福祉問題は、その最たるもので、労働人口が減り一人の人間が何人も大人の面倒を見なければならぬ計算になるのです。

子どもの数が減って一番困るのは学校です。どの学校も空き部屋が目立つよう



人間牧場農園でのサツマイモ収穫 今年はイノシシの被害もなく豊作でした

になってきました。これは何も過疎化が進んだ田舎だけの問題ではなく、都会の学校さえも例外ではなくなっているのです。時あたかも平成の大合併によって市町村の統合再編が急速に進んで、少子化と財政難を理由に学校の統廃合がなし崩し的に行われようとしているのです。「学校がなくなると地域が寂れる」のは常識で、地域住民は何だかんだと理由をつけ声高に抵抗していますが、水の流れを引き戻すのは容易なことではないようです。

もう一つ困ったことは家庭の家族関係です。一人若しくは多くても二人の子どもしか産まない核家族といわれる家庭は、少なく生んで大きく育てようと思う親の過期待に押しつぶされそうな貧弱な子どもが多く育つて、時には突然「爆発」「逆切れ」を起し、社会問題を引き起こす危険性をはらんでいるのです。

●どうする少子化対策

「少子化対策の一番の決め手」はと尋ねられたら「子どもを産むこと」だと誰でも思うのですが、お産をコントロールして性別を産み分けることができるような医学の進んだ現代でも、子どもを量産することはかなり難しく、政府も少子化対策担当大臣まで置いて努力していますが、中々実を結ばないようです。

子どもの数を増やすことが望めないのであれば、産んだ子どもをより良い人間に育てることを考えるしか手がないようです。そのためには少ない子どもをどう集め集団教育するかです。全国各地で行われている山村留学制度や地域活動はその苦肉の策でしょうが、いずれも苦戦を強いられ抜本的解決には至っていません。私は、二十年にわたって子ども達を他の仲間とともに「ひょうたん型由利島共

和国」と名付けた無人島に連れて行き、ボランティア活動によって共有・共感・共鳴を得るよう努力してきましたが、少子化でひ弱く三無主義（無責任・無感動・無気力）といわれる現代っ子が、電気も水道もない無人島で感動の涙を流し、そのことに感動したものです。また、二年前に自費で設置した人間牧場を開放し、「少年少女おもしろ教室」などを開いて孤立する子どもを群れさせ、逞しい子どもを育てる手助けをして、少なからず少子化対策に貢献していますが、親元から離れた子ども達は実に生き生きと輝いて活動しています。

いつの時代も子どもは国の宝です。少ないながらもいい子に育てましょう。

今の世は 親の都合で 子ども産む
出来た子どもを 平気で玉もぎ
隣国の 一人っ子政策 批判する
日本じゃどうに そんな世の中
カルタには 律儀なる者 子沢山
今の家庭は 律儀じゃないな
一人子を 預け働く 愚かさよ
今に自分が 預けられる身
(若松進一笑売啜りより)